

安全・衛生



同種災害防止の取り組み

現場で働くすべての人が健康で安全に働くための現場環境整備が企業活動の基盤です。そのためには、働く人が危ないことを危ないと感じる感受性、安全に作業する意識を向上させる教育、訓練、現場での声掛け、安全活動の見える化が重要になります。建設工事は現場ごとに作業条件が異なり、また工事に携わる職員、協力会社、作業者が違います。極端な言い方をすれば、初対面の人たちがたくさん集まって一つの物をつくり上げる共同作業場となりますので、昔から同様の災害が繰り返される傾向にあります。当社では、死亡災害ゼロの目標達成のため、死亡災害等重篤な災害につながる「墜落・転落」災害、「重機・移動式クレーン・作業船」災害の撲滅を目標に挙げ、取り組んでいます。



安全標識による見える化運動「ここでも落ちたら死ぬぞ」

新規入場者の災害防止対策

被災する作業者は新規入場後一週間以内の方が3割を占めています。そうした災害を防止するため、新規入場者を送り出した協力会社経営層による「新規入場後一週間以内の現場パトロール」の実施により、従業員の健康状態とスキルに合った適正配置になっているか等を確認していただいています。また、新規入場者に入場後一週間のあいだ毎日連続して「新規入場者シールの受け渡し活動」を行っています。これは、職長から新規入場者にシールを配布し、新規入場者が作業服等にシールを貼りそれを見ることにより『自分はまだ新規なので慎重に作業する』との安全意識向上を図るとともに職長の「新規だからわかりやすく丁寧な指導を」との監督意識の向上を図るものです。



新規入場者シールの受け渡し活動



コロナ禍での安全パトロール

年2回実施している全役員による「経営者パトロール」は、新型コロナウイルス感染防止のため役員の遠距

離移動を自粛し、在京、在阪の役員が関東地区、大阪地区を担当し、その他の地域は対象地域支店長で実施しました。第1回は10月に28人で38現場のパトロールを実施し、第2回は3月に14人で24現場のパトロールを実施しました。朝礼からの参加により現場の雰囲気をつかみ、日頃の作業への感謝と無災害完工への会社の熱意を伝え、現場作業員全員の安全意識向上を図りました。



武澤社長による役員パトロール(関東支店:那珂川災害復旧工事)
＜感染予防のため間隔を空けての朝礼状況＞



Webパトロール状況(九州支店:新門司沖護岸築造工事)

掲示板「あんかん瓦版一休さん」

毎月月末に全国の現場に対してその時々安全衛生・環境に関する情報をお知らせする掲示板「あんかん瓦版一休さん」を発信しています。現場に掲示して作業員の安全意識向上を図っています。



優良事例の募集と紹介

本支店安全環境部長から報告される全国の現場で実施している安全衛生・環境に対する取り組みの優良な事例を、本社で整理して安全環境部のポータルサイトに掲示しています。現場で工夫された好事例を全国の現場で紹介して、現場での取り組みの資料として取り入れ、現場の安全衛生・環境活動の向上を図っています。